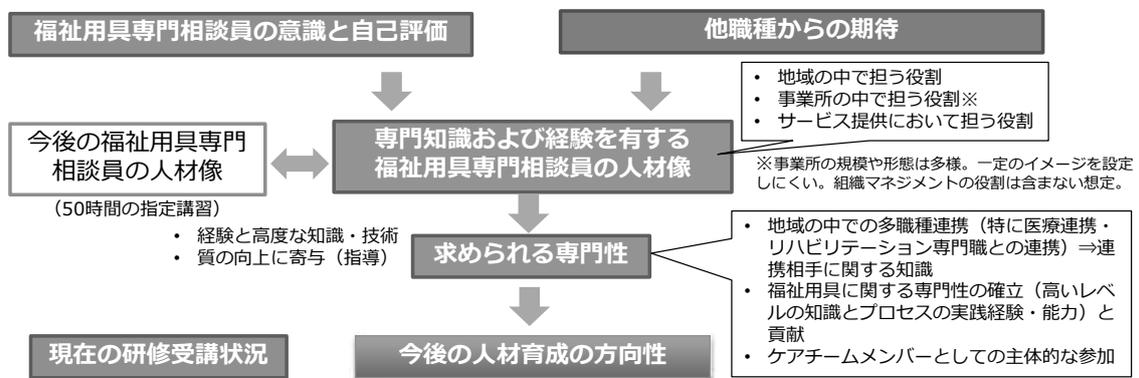


6. 調査結果のまとめと考察

- 本事業においては、他職種と連携しつつ介護サービス全体の質を高めることに資する「専門的知識及び経験を有する者」の具体的な人材像を検討するために、アンケート調査、ヒアリング調査を行い、現在の福祉用具専門相談員の業務の実態、他の職種との連携において果たしている役割、それに対応できる人材育成の実態を把握した。
- その結果を踏まえ、今後の福祉用具専門相談員に求められる専門性の検討に向けた整理を行った。

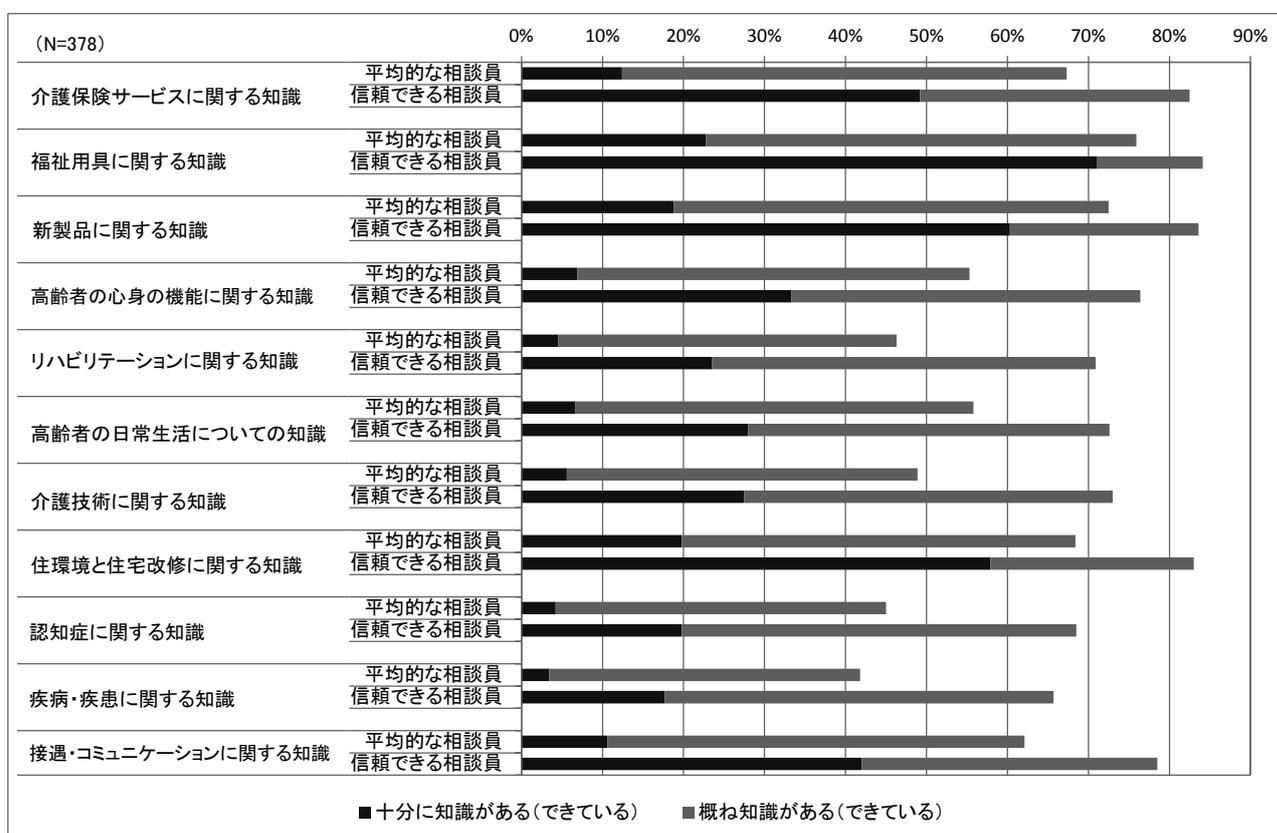


6-1. 福祉用具専門相談員に対する評価と「専門的知識及び経験を要する福祉用具専門相談員」の像

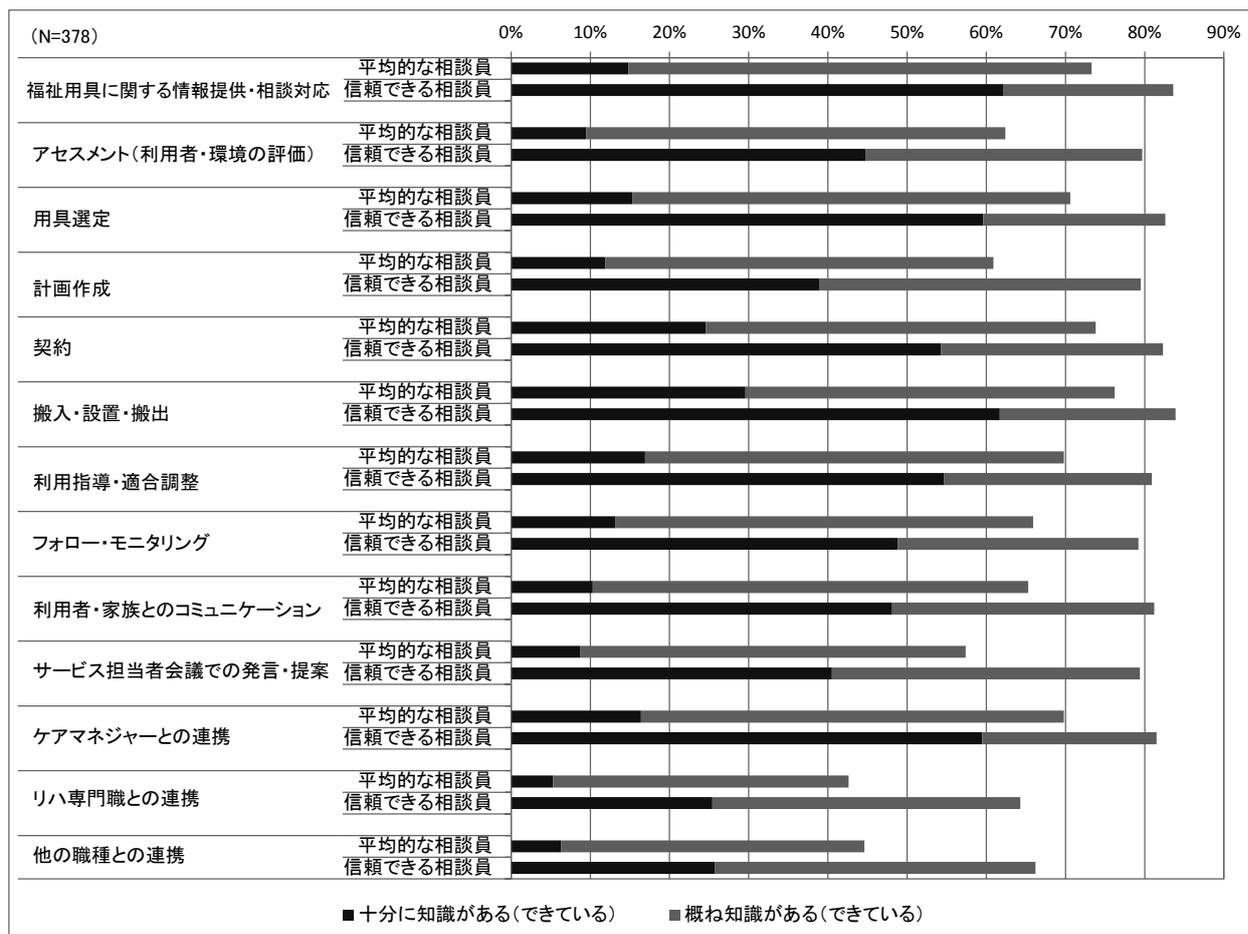
- (アンケート調査結果より) 介護支援専門員による「平均的な福祉用具専門相談員」「信頼できる福祉用具専門相談員」に対する評価を比較し、信頼されている福祉用具相談員が備えている知識や能力について把握した。

ここでは、専門知識と業務遂行能力の各項目について、「十分に知識がある(できている)」と評価されている割合、および「概ね知識がある(できている)」を合計した割合を比較して、その差の大きさについて、分析した。

介護支援専門員による評価【専門知識】



介護支援専門員による評価【業務遂行能力】



信頼できる福祉用具専門相談員と平均的な福祉用具専門相談員の差が大きい（30%以上）のは、以下の項目であった。

知識	業務遂行能力
<ul style="list-style-type: none"> 介護保険サービス 福祉用具 新製品 住環境と住宅改修 接遇・コミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉用具に関する情報提供・相談対応 アセスメント（利用者・環境の評価） 用具選定 搬入・設置・搬出 利用指導・適合調整 フォロー・モニタリング 利用者・家族とのコミュニケーション サービス担当者会議での発言・提案 ケアマネジャーとの連携

すなわち上記のような知識・業務遂行能力を備えた福祉用具専門相談員が「信頼できる」と評価されていると考えられる。福祉用具サービスの基本のプロセスを確実に実施でき、介護支援専門員から信頼されている福祉用具専門相談員の像が把握できる。

また、「十分に知識がある（できている）」「概ね知識がある（できている）」を合計して信頼できる福祉用具専門相談員と平均的な福祉用具専門相談員の差を比較すると、差が大きい（20%以上）のは、「高齢者の心身の機能に関する知識」「リハビリテーションに関する知識」「介護技術に関する知識」「認知症に関する知識」「疾病・疾患に関する知識」「サービス担当者会議での発言・提案」「リハ専門職との連携」「他の職種との連携」であった。これらの項目は、福祉用具そのものに関する専門性というよりも、関連する領域の専門性や多職種と連携する上で求められる知識、能力である。介護支援専門員から信頼を得ている福祉用具専門相談員は、こうした領域の知識、能力についても概ね満足される知識、能力を備えていることがわかる。

- 参考として、福祉用具専門相談員の自己評価結果を、経験年数別に比較したところ、多くの項目では年数とともに十分にできていると自己評価する割合が高くなるが、その中でも特に10年以上の場合に3人に1人以上の福祉用具専門相談員が十分にできていると自己評価しているのは、以下の項目であった。

知識	役割（能力）
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具専門相談員の役割 ・福祉用具に関する知識 ・住環境と住宅改修に関する知識 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具に関する情報提供・相談対応 ・用具選定 ・契約 ・搬入・設置・搬出 ・利用指導・適合調整

これらの項目は、上記の介護支援専門員が信頼する福祉用具専門相談員の評価が高い項目と共通しており、経験を積むことで知識、能力を備えていることがわかる。

6-2. 「専門的知識及び経験を要する福祉用具専門相談員」に求められる知識と役割（能力）

- アンケート調査結果より、今後、「専門的知識及び経験を要する福祉用具専門相談員」に求められる知識、能力を職種別に比較すると以下のとおりであった（図表 118 および図表 121 参照）。

	知識	役割（能力）
福祉用具専門相談員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険制度や福祉用具貸与サービスに関する最新かつ正確な知識 ・ 福祉用具の種類、役割、機構、適用に関する幅広く正確な知識 ・ 高齢者の心身の機能や変化の特徴に関する経験に基づいた幅広く具体的な知識 ・ 高齢者の住環境の課題や住宅改修の目的、仕組みに関する経験に基づく具体的な知識 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の心身の状態や環境、生活の目標を踏まえて適切な福祉用具を提案すること ・ 利用者や環境に応じてフィッティング・適合すること ・ 導入後の利用状況や変化を適切に評価し、用具の変更等を検討すること ・ <u>福祉用具に関わる事故の防止に努め、問題発生時に迅速・適切な対応を行うこと</u>
介護支援専門員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険制度や福祉用具貸与サービスに関する最新かつ正確な知識 ・ 福祉用具の種類、役割、機構、適用に関する幅広く正確な知識 ・ 高齢者の心身の機能や変化の特徴に関する経験に基づいた幅広く具体的な知識 ・ <u>高齢者の日常生活の基本動作、個別性、生活リズム等についての経験に基づく具体的な知識</u> ・ 高齢者の住環境の課題や住宅改修の目的、仕組みに関する経験に基づく具体的な知識 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の心身の状態や環境、生活の目標を踏まえて適切な福祉用具を提案すること ・ <u>福祉用具の選定理由、想定される効果やできること、生活のイメージを説明すること</u> ・ 導入後の利用状況や変化を適切に評価し、用具の変更等を検討すること
リハ専門職	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険制度や福祉用具貸与サービスに関する最新かつ正確な知識 ・ 福祉用具の種類、役割、機構、適用に関する幅広く正確な知識 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の心身の状態や環境、生活の目標を踏まえて適切な福祉用具を提案すること ・ 利用者や環境に応じてフィッティング・適合すること ・ <u>福祉用具の調整・メンテナンスを行うこと</u> ・ 導入後の利用状況や変化を適切に評価し、用具の変更等を検討すること ・ 他職種と連携して利用者の状況把握、 ・ 適切な用具利用を図ること

（下線は他の職種と共通していないもの）

ただし、この調査項目では、知識については上位3項目、役割（能力）については上位5項目までを選択する形となっている。調査結果からは、知識については、多くの回答者の回答は、「介護保険制度や福祉用具貸与サービスに関する最新かつ正確な知識」と「福祉用具の種類、役割、機構、適用に関する幅広く正確な知識」の2つに集中し、3つめとして選択する項目は、その他の項目の中であまり大きな差がなかったことが読み取れる。

「専門的知識及び経験を要する福祉用具専門相談員」に求められる知識は、いずれの職種にも共通して、介護保険や福祉用具サービス、福祉用具、住宅改修に関する専門的な知識が求められている。また役割（能力）としては、適切な用具の提案、フィッティング・適合、再評価と変更の検討に関する高い能力が求められている。

介護支援専門員は上記に加えて「福祉用具の選定理由、想定される効果やできること、生活のイメージを説明すること」、リハ専門職は「福祉用具の調整・メンテナンスを行うこと」を重視している。福祉用具専門相談員は、福祉用具に関わる事故の防止に努め、問題発生時に迅速・適切な対応を行うこと」を重視している。

- 他職種へのヒアリング調査より、福祉用具分野に関する専門的知識や能力に加えて、それらを発揮して専門職としてチームの一員として貢献する姿勢が期待されていることが把握された。

介護支援専門員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の気持ちを汲み取ろうとする姿勢 ・ 選定・提案、アドバイス（状況を読んだプラスアルファの提案、先を見越した提案、複数の選択肢の提示、自立に向けたアドバイス） ・ 制度等の丁寧な説明 ・ チームの一員としての主体的な参加（担当者会議出席、発言、熱意、一緒に取り組む姿勢）
リハ専門職	<ul style="list-style-type: none"> ・ リハ専門職の意図を解釈した提案

- 他職種の人材養成プログラムでは、上級者に求められる能力として初級者へのスーパーバイズ能力が共通して求められている。例えば、認定介護福祉士では、「他の現場職員の指導を行う」とされており、介護職チームへ教育・指導、介護サービスのマネジメントを行う力の獲得が志向されている。また、主任介護支援専門員では、「介護支援専門員に対するスーパーバイズ、地域包括ケアシステムを実現するために必要な情報の収集・発信、事業所や職種間の調整といった役割」が求められている。認定作業療

法士に必要とされる能力として、教育能力があり、職場での指導者としての教育能力は、後輩への知識・技術の伝達者としての能力であるとしている。

専門性に基づく職能として福祉用具専門相談員においてもこの能力を考慮する必要がある。「専門的知識及び経験を要する福祉用具専門相談員」に求められる役割（能力）としては、他の項目に比べると相対的に回答割合は低いが、管理者のほうが福祉用具専門相談員よりも高く、福祉用具専門相談員自身の認識よりも管理者の期待のほうが大きいと考えられる。

6-3. まとめ

調査結果より、「専門的知識及び経験を要する福祉用具専門相談員」に求められる役割について、以下のように整理することができる。

- 介護支援専門員から信頼を得ている経験豊富な福祉用具専門相談員が備えている知識・能力が明らかになった。介護保険や福祉用具、住宅改修に関する十分な知識に基づいて、福祉用具に関する一連のサービス提供プロセスを確実に実施し、福祉用具の専門職としての役割を果たすことが前提となっている。
- こうした知識、能力に加えて、多職種との連携を実現するためには、さらに高度な知識、能力が期待されている。ケアマネジャーやリハ専門職等、各職種との接点において、連携相手の専門領域を一定程度理解したうえで、福祉用具に関する専門職としての知見に基づく情報提供、提案などが重視されているといえる。
- 上記の知識、能力を備え、こうした知識、能力を十分に発揮して、利用者への説明や相談対応、サービス担当者会議など多職種による協議の場やケアプラン作成の支援の場において主体的に意見を述べ、積極的に福祉用具を用いた生活のあり方を提案するなど、ケアチームのメンバーとして主体的に関わる姿勢が求められている。
- すなわち、「専門的知識及び経験を要する福祉用具専門相談員」には、単に専門的知識と経験に基づいた知見を蓄積するだけでなく、それをベースにして福祉用具を用いた生活のあり方、それを実現するための福祉用具の選択、利用者への適合、他の介護サービスとの摺合せなどを提案し、実現させる「実践力」が求められていると言える。
- 福祉用具専門相談員自身も、「専門的知識及び経験を要する福祉用具専門相談員」としての役割を果たすためには、福祉用具専門相談員としての資質として、人間性をも含めて、専門領域および医療、介護技術等の関連領域に関する知識、アセスメントや選定・提案能力、コミュニケーション能力、他職種との連携やチームケアにおける貢献、福祉用具に関する専門職としての心構え、仕事に取り組む姿勢などの重要性を認識している。

福祉用具専門相談員に求められる知識・能力

<p>今後さらに期待される知識・能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門性や経験に基づく積極的な選定・提案、アドバイスの提供（状況を読んだプラスアルファの提案、先を見越した提案、複数の選択肢、自立に向けたアドバイスなど） ・ 利用者の気持ちを汲み取ろうとする姿勢や制度等に関する相手にあわせたわかりやすく丁寧な説明など ・ チームの一員としての主体的な参加（担当者会議出席、発言、熱意、一緒に取り組む姿勢） 	
<p>専門性の高い知識・能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の心身の機能や変化の特徴に関する経験に基づいた幅広く具体的な知識 ・ 高齢者の日常生活の基本動作、個別性、生活リズム等についての経験に基づく具体的な知識 ・ リハビリテーションの考え方や福祉用具との関係に関する知識 ・ 高齢者に多い疾患・疾病とその症状・進行に関する知識 ・ チームケアに関する知識 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉用具に関わる事故の防止に努め、問題発生時に迅速・適切な対応を行う能力 ・ 福祉用具の選定理由、想定される効果やできること、生活のイメージを利用者・家族やケアチームに対してわかりやすく説明する能力 ・ 適切に福祉用具の調整・メンテナンスを行う能力 ・ チームの他職種の要望に対応したサービス提供 ・ 事業所や地域内で、経験の浅い福祉用具専門相談員に対する育成・指導、業務におけるスーパービジョンを行う能力
<p>基本的な知識・能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険サービスに関する最新かつ正確な知識 ・ 多様な福祉用具に関する知識 ・ 新製品に関する詳細な知識 ・ 機種別の構造、機能の違い、適用に関する知識 ・ 住環境と福祉用具の関連に関する経験に基づく具体的な知識 ・ 接遇・コミュニケーションに関する豊富な知識 ・ 認知症の症状や特徴を踏まえた関わり方に関する知識 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉用具に関する情報提供・生活全般についての相談対応能力 ・ 的確なアセスメント（利用者・環境の評価）能力 ・ 利用者や環境の状況に応じた適切な用具選定能力 ・ 搬入・設置・搬出のきめこまかい調整能力 ・ 利用者や環境の状況に応じた利用指導・適合調整能力 ・ 状況変化をとらえるフォロー・モニタリング能力 ・ 状況に応じた利用者・家族とのコミュニケーション能力 ・ サービス担当者会議での発言・説明・提案能力 ・ ケアマネジャーと円滑に連携する能力
	<p>知識</p>	<p>能力</p>